校内の見学後、「ぐんまのまちづくり講演会」として、三村副校長より教育と街づくりの観点からご講演いただきました。

教育は街全体で行うもの

私は、教育は学校だけで行うものだと思っていました。その考えが改まったのは、教育委員会に入ってからです。当時、伊勢崎市には景観条例がなく、街中には煌びやかな店がたくさん並んでおり、その状況が街全体に蔓延しつつありました。そのような状況を鑑み、景観保護団体から、当時の街の状態が子どもたちにどのような悪影響を与えるのか、教育の観点から意見してもらいたいと、私に声がかかりました。その集まりの中で、「こんなにも熱心に子どもたちのことを考えてくださる方たちがいるのか」と感じ、そのことがきっかけで、教育は学校のみならず街全体で行うものだと、私の中で認識が変わりました。

教育には子どもの人生を変え、作り出す力があります。10 年後、20 年後の郷土、社会、日本を担うのは間違いなく子どもたちです。教育をしっかり行うことにより、魅力ある街や日本を作ることが出来ます。

教育における都市間競争

近年、グローバル化が進むにつれ、何が地域の特色なのか分からなくなりつつあります。人や物、情報や技術、お金は一瞬のうちに世界中を駆け巡り、その流れに乗って政治、経済、文化は動きますが、教育についてもこの流れに乗っているのです。

国際的な学習到達度を測る指標として、「PISA 型学力」というものがあります。これは、知識や経験をもとに、社会の中でどのように思考し、判断するかを測るものです。現在、この学力検査の結果を上げるため、世界中が躍起になっています。

日本は二十数年前までは、この PISA 型学力の成績が世界のトップレベルを走っていました。同時に経済力もトップレベルでした。しかし、今や見る影もありません。教育力と経済力はイコールの部分があり、世界では教育問題は経済問題です。「国づくりは学力から始まる」ということが世界の風潮になっており、熾烈な競争が行われているのです。

その競争は、日本国内の都市間でも起こっています。今は、それぞれの市町村で「うちの市町村ではこういった教育を行う」と宣言をして、都市間で競争する時代なのです。

伊勢崎市の教育構想

そのような競争の中で、伊勢崎市も負けてはいません。学びの街が地域・家庭・子どもを育てる。これが、伊勢崎市の方針です。

伊勢崎市の教育構想には３つの大きな柱があります。学習習慣を徹底し、基礎学力や英語力の定着を図る「学力パワーアッププラン」、学校や家庭、地域の絆を強化し、街全体で子どもを育てる「愛燦々プラン」、そして、他の市町村にはない伊勢崎市の目玉である「地域の学校いきいきプラン」です。

「地域の学校いきいきプラン」は、地域の教育力を学校の教育に生かすということをコンセプトに、企業や大学といったカリキュラムパートナー、保護者や地域といったスマイルサポーターをどんどん学校に入れています。教育は学校だけでなく、地域の皆で良くすることで結果的に地域全体も良くなるという考えです。

地域や企業から外部指導者を招く場合、テーマに合致する講師をその都度呼ぶというのが一般的だと思います。しかし、本校では毎年、同じ方を講師として招きます。そうすることで、教育計画に組み込み、継続的に地域の方々のきめ細やかな指導を受け、企業や大学の最先端の知識・技術を学ぶことができるのです。

また、その取り組みは、同時に地域の方々の生き甲斐、企業の社会貢献活動、大学の研究の場を創出することとなります。

このような、双方にメリットがある関係性を持つことにより、教育が街全体の活性化にも繋がるのではないかと考えています。

地域の教育資源を取り入れる

伊勢崎市のパイオニア的役割を果たす学校は我が校の他に、伊勢崎市立北小学校があります。北小学校は市内全域から入学することができる特認校であり、「街づくりと学校づくりは別物でなく、一緒である」という考えから、いせさき明治館や旧時報鐘楼など、地域の教育資源をどんどん学校に取り入れようという発想のもと、教育活動を展開しています。したがって、北小学校周辺のまちは「校前町」と呼ばれます。門前町ではなく校前町であり、学校を核として地域づくりが行われているのです。非常に良い言葉だと思います。